

先ずもって3月11日の東日本震災は、三陸沿岸の津波被災や、福島原発の事故を呼び起こし、未曾有の国難となり、まさに安全安心な生活が出来なくなり深刻な状況にあります。

災害にあわれた方々に対し心から哀悼とお見舞いの誠を捧げるものであります。

この度の惨事は、或る意味では、被害にあわれた方々には申し訳れ有りませんが、今日の世相に対する警告ではなかったのではないかと考えさせられます。

余りにも贅沢な、恵まれ過ぎた環境にドップリつかっている。

また、正義が通らず悪や不正がはびこる、政治家が平然と嘘を云う。

日本人の誇りである黒髪を赤く染めて得意になって歩いている。

昔から誇りを失った民族、国は遠からず亡びるといわれており、私はその中に天罰が下ると思っておりましたからね。

さて、皆さんおばんでございます、そしてお久振りでございます。

徒に馬齢を重ねて八十を三っばかり越えましたが、最近時の経つのがやたらに早くなり、この前新年会をやったと思ったらもう忘年会の会場等を・・・

この分だと「千の風」になって、その辺を吹き回るのも間もなくと思うと一寸淋しい気持ちになって来ます。

私共の学校は昭和元年の創立、皆さんは新制高校7回生、昭和30年の卒業でしたね。C組の担任は旧制岩手中学校1回生遠藤貫中先生、B組の担任は2回生の日野岳浩先生、A組の担任はペッペの15回生。

私は男の兄弟4人、上の兄は9回生、次は11回生、弟は17回生、

皆旧制岩手中学校の卒業で、父は初代PTA会長、そして佐々木哲郎校長と大の親友で、家が近い事もあってよく家に来られ好きな酒を嗜んでおりました。本当の教育は私学に有りと云うのが持論の様でした。

私も岩手中学に学んだ事、そして母校で教鞭をとった事を誇りにおもっております。

教職45年を振り返り冷汗3斗の思いが有りますが、兎に角一生懸命やりました。

若い時は立派に生きるにはどうしたら良いかと考えましたが、最近は立派に死ぬにはどうすれば良いかを考える様になりました。

結論としては、今の今を精一杯生きる事が立派に死ぬことになる事がわかりました。

人生いろいろの事があるけれど明日はきっといい事がある、だからもう少し頑張って精一杯生きて行こうよと、その様な心境で生きています。

生きているのではなく、皆のお陰で生かしてもらっている事に感謝をし、

くよくよしないで節度のある生活を心がけております。

7回生の皆さんも精々生き甲斐のある生活を送り、松の緑と変わらない人生を送られるよう祈念して、今日のお呼ばれしたお礼にさせていただきます。

足澤 至